

小さな幸せ

《資料①》

素手でトイレの床にしゃがみ込み、素手で便器の奥まで手を突っ込んでみずみまで磨く。「呉掃除に学ぶ会」の皆さんは、呉市内の小中学校を中心に、トイレ掃除の活動に取り組んでいる。この会の発起人の一人である佐々木一幸さんは、「呉掃除に学ぶ会」の代表世話人として、その活動を進めている。

佐々木さんに、トイレ掃除との出会いやこの会の活動に込められた思いを伺った。

佐々木さんがトイレ掃除と出会ったのは、平成十七年九月のことだった。子どもさんが通う小学校で、たまたまトイレ掃除の活動が行われることになったのだ。

「特別やりたいという思いがあったわけではありません。PTAの役員をしていたこともあって、参加しないわけにはいかないというような感じでした。やり終えた時も、特別な思いはありませんでした。まあ、掃除をしたわけですから、きれいになってすがすがしい気持ちや、ちよつとした満足感がありましたけどね。思ったよりも楽しかったなというくらいの感想でした。これで終わるはずだったんですが・・・。」

一か月後、全国でトイレ掃除の活動を展開されている鍵山さんを呉に呼ぼうという話になった。トイレ掃除の経験があったからだろうか。佐々木さんにも声がかかる。そして、呉中央公園で二回目のトイレ掃除を体験する。さらに、その一か月後、呉にも「掃除に学ぶ会」を立ち上げようという話もち上がった。この時も、佐々木さんに発起人として名前を連ねてほしいと声がかかった。さらには、会の代表世話人をやってくれないかという話になったのだ。

「決してやりたいって思っていたわけではないんです。言ってみれば、義理で引き受けたようなものでした。」

行きがかり上、仕方なく引き受けた代表世話人だったが、当時、佐々木さんには大きなプレッシャーがあったという。

「各地の掃除に学ぶ会の世話人の中には、トイレ掃除を通して大きな実績を上げておられる方や、本を出したり講演をされたり、中にはテレビや新聞に取り上げられている方までいらっしやっただんです。私には、どうやっても手の届きそうにない方々ばかりで、それが大きなプレッシャーとなっていました。でも、代表世話人を引き受けた以上は、やらなければならぬという義務感がありましたし、他の代表世話人の方と比べて、『悪く思われたくない。』という思いで何とかやっているという感じでした。」

《資料②》

「そんな私が、トイレ掃除を始めて、一年ほどたった頃のことです。自分が大きく変わっていると感じる出来事がありました。」

佐々木さんの仕事場の近くには小さな公園がある。全く手入れがされていない、一面雑草で覆われた公園だった。佐々木さんは、毎日この公園を見て、気にはなっていたのだが、あまりの荒れように手をつけることができずにいたのだそうだ。

そんなある日、

「代表世話人でもありますし、意を決して公園の一角の草抜きを始めました。すると驚いたことに、私は草抜きをしながら『幸せだなあ。』と感じたのです。何の得にもならない、腰が痛くなるような草抜きをして、どうして幸せを感じるのか、不思議だと思いませんか。私自身、お金を儲けることや楽に生きることが幸せだと考えていましたから、この出来事はとても衝撃でした。実は、私はこの時まで、自分が幸せだと感じたことがありませんでした。むしろ、何で自分は経営者の二代目に生まれ、好きでもない接客業（ホテル）や弁当屋さんを継がなければいけないのだろう。経営者となったためにPTAの役員やら様々な会のお世話をさせられて、何で自分にこんな役ばかりまわってくるのだろう。自分はなんて不幸な人間なんだとさえ思っていました。そんな私が草抜きをして、どうして幸せを感じたのか。私は初め、仕方なく草抜きをしていました。でも、草を抜いていくうちに熱中して、ただ公園をきれいになりたいという気持ちになっていました。そしてこの時、きれいになった公園で遊ぶ子どもたちのイメージが浮かんできて、何だか嬉しくなってきたのです。そして、気がつくとは私は『幸せだなあ。』と感じていたので。私は長い間、幸せとは何なのかは分かっていませんでした。だから、私の周りにあるたくさんの小さな幸せに気付くことができなかつたのです。そんな私が、トイレ掃除と出会い自分自身を見つめ直し、初めて自分が幸せであることに気付くことができたのです。もしかしたら、私と同じように、たくさんの小さな幸せに恵まれながら、それに気付いていない方も多いのではないのでしょうか。私がそうであったように、トイレ掃除という体験を通して、幸せとは何なのかを、一人でも多くの生徒の皆さんに気づいてもらいたい。そう思っています。偉そうなことは言えませんが。私自身、偽りでやっていたことに、心がついてきただけです。良い行動は良い考えを生み出すんですね。」

最後に、これからの活動の目標について伺った。すると、佐々木さんは穏やかに微笑みながら、こう答えてくださった。

「ただ、積み重ねていくだけです。」

夏休み、八月二十三日トイレ掃除をすると聞いて、私はあまりうれしくありませんでした。参加しようか迷っていましたが、友達も参加するというので私も参加することにしました。

体育館では、「呉掃除に学ぶ会」の人たちが、トイレ掃除に使う道具や方法などの説明をしてくださいました。とても分かりやすく、

「これなら分かりやすいし、実際に使えるかも。」

と、思いましたが、まだ素足でトイレ掃除をすることに抵抗がありました。最初にハンドクリームを手につけたものの素手でやるのも、

「汚いし、いやだな。」

と思っていました。

掃除を始めると、私たちはためらっていましたが、「呉掃除に学ぶ会」の人たちはとても真剣にしていました。素手と素足でのごしごとトイレを掃除していたので、やることを教えてもらい、私たちも素足になってやってみることにしました。最初はおそろおそろやっていますが、やるうちに慣れてきて、どんどんきれいに掃除をすることができるようになりました。

最初はとても嫌がっていた床みがきや便器の奥の掃除も、掃除をするうちに少し楽しくなってきました。

便器の奥までみがいたり、壁を洗剤で洗ったりすることは今まで全くしたことがなかったので、いい経験ができたなと思います。

掃除を終えたあと、使った道具を洗って、数などもきちんと数えているところを見て、

「道具を片付けるまで掃除は終わっていないんだな。」

と思いました。私も家などで掃除をするときも、このことを思い出してきちんと片付けまで終わらせようと思います。

最後に食べたカレーも、精一杯頑張って掃除をしたあとだったので、とてもおいしく感じられました。

そこで私は、PTAの講演会で佐々木一幸さんが話された「草むしりて小さな幸せが感じられた。」という話を思い出しました。私はその時、

「草むしりなんかで、幸せが感じられるのかな。」

と、不思議に思っていました。トイレ掃除で幸せとまではいかないけど楽しさを感じられたのではないかと思えます。

これからも、小さなことで幸せや楽しさを見付けていきたいなと思いました。

トイレ掃除は、楽しかったしやりがいもあったので、また参加してみたいです。そして将来、嫌なことでも進んでできる大人になればいいなと思います。

《トイレ掃除の様子》

「呉掃除に学ぶ会」の皆さん 道具の使い方の説明



トイレ掃除の道具

トイレ掃除 1



トイレ掃除 2



トイレ掃除 3



トイレ掃除 4



トイレ掃除 5



「カレーをいただきます。」

